

「堀江ジャンクション/ARTGRAM(アートグラム)」代表

なが はら たつ や
永原達哉さん



プロフィール

1964年、大阪市生まれ。明治生まれの料理人だった祖父の大きな影響を受けて育つ。高校卒業後英国に留学。帰国後 西区堀江の住人に。01年、堀江を中心に芸術と歴史、町文化などをホームページを中心に紹介する「堀江ジャンクション」(現「堀江ジャンクション/ARTGRAM」)を設立。現在ではフリーマガジンの発行やケーブルTV番組の制作、専門学校との企業課題提案など幅広く活動中。



2005年 8月 大阪市図書館イラストコンテストの審査委員会にて 写真提供=永原さん

文化・芸術と、自然環境・住民生活との結びつきを

アメリカ村や南船場と共に近年、若者の脚光を浴びている堀江。その堀江で、文化・芸術と自然環境やそこに住む人々の暮らしが強く結びつくようにとの願いを込め、多彩な活動を続けているのが、「堀江ジャンクション/ARTGRAM」代表の永原達哉さんである。

主な活動に、ギャラリー情報を集めた「フリーマガジン」や「ホームページ」があり、ケーブルTVに定期放送枠も持つ。一方で、イベント活動も活発だ。代表的なものに、03年11月にスタートした堀江の今昔を展示会や歴史ツアーで紹介する「堀江エコミュージアム」がある。

3回目となる今年のメインイベントは堀江の生んだ江戸時代の町人学者、木村蒹葭堂(きむらげんかどう)を顕彰する「オマージュ!木村蒹葭堂2005」(11月26日(土)~12月15日(木)、大阪市立中央図書館)である。すでに1回目「生い立ち」、2回目には「交流」をテーマに開催。3回目の今回は「宝物」をテーマに、貴重な資料のほか、「堀江の専門学校生と一緒に、蒹葭堂

をテーマに絵本とカルタをつくりはじめたのですが、両方を完成させ、会期中に子ども達と一緒に遊びたい」。ほかにもフォーラム(12月3日、中央図書館)や歴史講座(11月23日、27日、12月4日、西区民センター)など多彩だ。

英国で“放浪の旅”に

幅広いカテゴリーをこなし、「職業は?と聞かれても一言では答えられないんです(笑)」と話す永原さんは、天王寺区で生まれた。「明治生まれで厳格な料理人だった祖父の目にとまり」小学校入学式の日から、皿洗いの修行をさせられることになる。他店で皿洗いや賄いなどで修行を続けた小学生時代。中学生時代には午前4時起床で登校前に市場の買い出しに連れられ、下校後は塾通い。塾から帰ると店での皿洗やという修行が高校卒業時まで続くのである。

大学進学を考えはじめたころ、学園祭で英国人留学生と遭遇する。「好きなロックバンドの話がしたくて、話せなかった英語が3ヶ月でしゃべれるようになった」ほど意気投合し、英国留学へと結びついた。

だが英国では、「大学入学前の準備プログラムで“挫折”」。もっぱら「芸術大学の学生らと油絵や書を書いてはフリマで売ったり、空手を教えたり」で、「最初はまじめな1年間でしたが、あとは放浪の1年半でした(笑)」。だが、英国では、アートへの思いと、人脈が養われていたのだ。不屈の精神は、おじいさん譲りか。

移転した堀江で、当時増え続けていたギャラリーを巡り、作品展PRの協力を買って出て、お寺の軒先ではじめたのが、ボードにギャラリー情報を貼り付けた「アートビルボード」。これが堀江ジャンクションの前身となるのである。

最近堀江ジャンクションに「図表」という意味の「ARTGRAM」の文字が付け加えられた。「堀江での活動は、堀江ジャンクションで。そこから生まれ、他の地域や海外に繋げるものについてはアートグラムで」という思いからだ。永原さんが、ここにきて活動エリアを全国や海外にも向け始めている、その証しだろう。

(文・脇本勤 / 表紙写真・高島悠介)